

SORA

web magazine 2018.jul. vol.98

Travel

Mexico

LA PAZ

アシカと過ごした4日間 メキシコ・ラパスの夢の日々

MAP
CLICK!

Photo & Text : Yasuaki Kagii



10年以上も、毎年9月から10月にラパスに取材に訪れる機会に恵まれている私(鍵井)は、中々、ラパスの海に詳しくなりました。特に、アシカのポイント、ロスイスロテスは大好きなポイントで、今回の取材では、4日間毎日アシカたちに会いに行きました。今回はデイトリップというスタイルで、毎日日帰りダイビングに行き、夕方以降はラパスの町で楽しみました。アシカ三昧だったラパスの海取材を、是非見てください。

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2017
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.





アシカとの出会いは、恋人との出会いに似ている



初日の1本目のダイビングは、オーソックスにロスイスロテスの南側で潜る。グループでエントリーしたが、他のメンバーはラパスが初めてだったので、少し深度を下げた砂地にいるジョーフィッシュを見に行く。私はポイントを理解しているので、みんなが戻ってくるアシカのいる場所に一人向かった。すると水面下でゆらゆらしているアシカを発見。毎年訪れている私だけ、1年ぶりの再会はやはり緊張する。大きさは赤ちゃんではなく、昨年よりも前に生まれた若い個体だった。ゆっくり接近しても逃げない。私は、最初からそんな素敵なモデルになってくれそうなアシカに出会えると思っていなかった。少々戸惑いながら撮影を続ける。一度接近し過ぎたので、アシカはスルーと海の向こうに行こうとしたが、また最初にいた水面下に戻ってきては、ゆらゆらと泳ぎ始めた。もしかすると仲良くなれるかもしれない。そう思い、少し大胆にアプローチする。そうすると、アシカは私の頭上で止まり始めた。

頭の上にアシカがいる。それも彼？彼女？が自ら好んで、そこにいてくれる。野生の生き物が、私に興味を示してくれている。正直、少し怖いという気持ちと同時に嬉しい感情、また、海の中でアシカと二人きりだったかもしれないけど、背筋がゾクゾクとした。若かりし頃、好きな人に対して、こんな反応があったのか？は覚えてないが、初めてではない懐かしい感覚だった。

自然の生き物には、基本的には、触らないことを信条にしている私だが、思わず手を伸ばし、胸ビレに触れてみる。アシカは何も反応せず、私が触ったことを、どんな風に思ったのか……わからなかった。そして、お腹あたりを触ってみた。すると「ピクン!」と体を震わせ、海の向こうに泳ぎだした。嫌だったんだ……。しかし、それでも、またアシカは私の頭周辺に戻ってきてくれる。馬鹿な私はメディアの取材であることを忘れて、アシカとの自撮りを始めた。きっとこのアシカとプライベートな写真が欲しかったのか……いや違う違う。ちゃんとお仕事だったのです……(笑)。

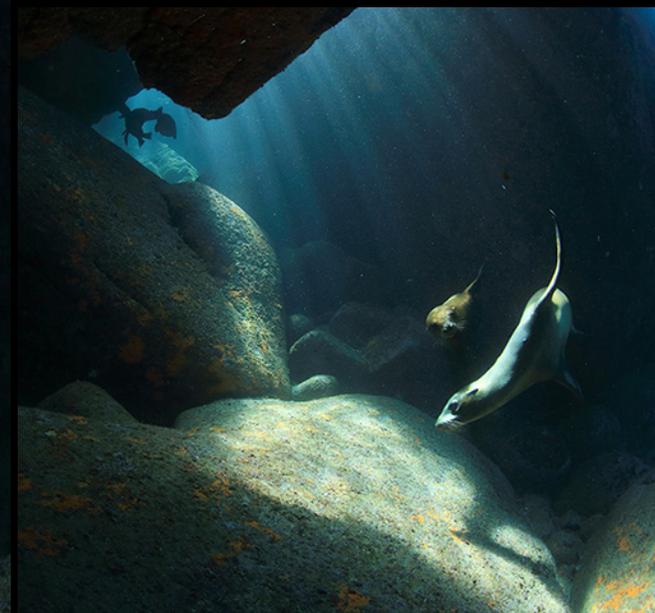
背筋がゾクゾクする

ロスイスロテスの南側は、光の宮殿

ロスイスロテスは島の北側と南側がメインのポイントになっている。私の印象としては、南側はたくさんの太陽の光が海中まで届き、まんべんなく海底を照らす明るいポイント。アシカがやってくる大きな穴もあり、これはこれで外せない。また北側は、島に遮断された斜めの光が海中に飛び込んでくるポイント。海中は〈光と影〉の世界で、そこはアシカたちの宮殿のように思える。光のない岩陰とブルーの海中景色のコントラストがこれまた良い。白い光の中に飛び込んでくるアシカも素敵。きっと、カメラを持ってくるダイバーも多いと思うけど、この光を意識して撮影できれば、もっと色んな写真が撮れると思う。



Travel Mexico
LAPAZ
メキシコ・ラパス



少し俯瞰してみると、
アシカたちの光と岩の神殿が見えた



Travel Mexico **LAPAZ**
メキシコ・ラパス



新しい基地を見つけた!



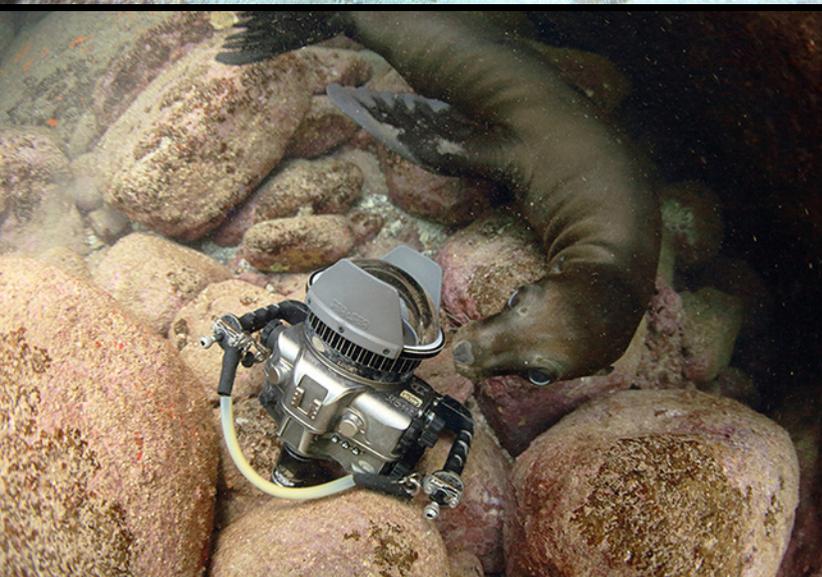
ロスイスロテスの北側、南側にもアシカの子供たちと特に会える場所がある。それは、大きめの岩の亀裂がある場所で、そこで待っていると入れ替わりで、アシカの子供たちがやってきては、好奇心旺盛な瞳で、私たちを見つめ、ポーズを取ってくれたり、手を甘噛みしてくれたりする。ダイバーのみんながラパスにやってきたら、是非アシカとしたいスキップがここで行われている。アシカの子供たちが集まる、秘密基地のような岩の亀裂はだいたい決まっています、毎年同じ場所で会える。今回も代わり番こで他のダイバーと撮影していると、今回お世話になったコルテスクラブの幸子さんが少し慌てて、「向こう! OK! 向こう! OK!」とジェスチャーをする。何かな?と付いていくと、少し移動し

た場所に、少し大きめの亀裂があり、そこにやんちゃなアシカの子供たちがたくさんいた。それも他の亀裂の子供たちよりも好奇心が旺盛で、海中はもっと賑やかな雰囲気となった。10年以上もこのポイントに潜っているけど、まだまだ知らないことがあるな、と感心させられ、また彼らの新しい秘密基地に出会えたことに嬉しく思う。来年もまたこっそり会いに行こう……。詳しくは、幸子さんに聞いてね(笑)。

アシカたちのキュートなスナッフと少しアドバイス

アシカたちは本当に可愛い。真っ直ぐ見つめられても、少し疑いの目で見られても、アシカから接近してくると見せる上目遣いも。どの表情も豊かで、私たちが幸せにしてくれる。私たちダイバーはいろんな海に潜り、自然の中で遊ぶということから、知らない間に、どのように自然と付き合えば良いか？接すれば良いか？を気付いているはず。ある程度のルールが各人の中にあると思う。しかし、アシカが可愛すぎて、そのルールを超えてしまうことがあると思う。特に子供たちが集まる岩の亀裂では、悲しい景色に出会う。だいたい岩の亀裂の入り口あたりに着底し、そこで待っているとアシカたちがやってくる。もちろん野生のアシカなので、あまり来てくれないこともある。それが待て

ないのか？アシカを独占したいのか？岩の亀裂の奥まで入っていくダイバーがいる。日本人ダイバーに限らず、欧米のダイバーも。きっとガイドさんも注意していると思うけど、以前はもう少しそのような行動は憤まれていたと思う。私もこれまでに、写真が撮りたくて奥に入ってしまったことがあり、日本人のガイドさんに引きずり出されたことがある。今はもうそのようなことはしない。正直、ロスイスロテスのアシカは、近年、個体数が減ったと思う。近くの違う島にアシカが増えたという。それが、私たちダイバーと関係があるのかわからないが、継続的にアシカと遊びたいならば、ダイバーはもう少し慎んだ方が良いと思う。彼らの生活圏のボーダーには、入らないのが良いと強く思う。

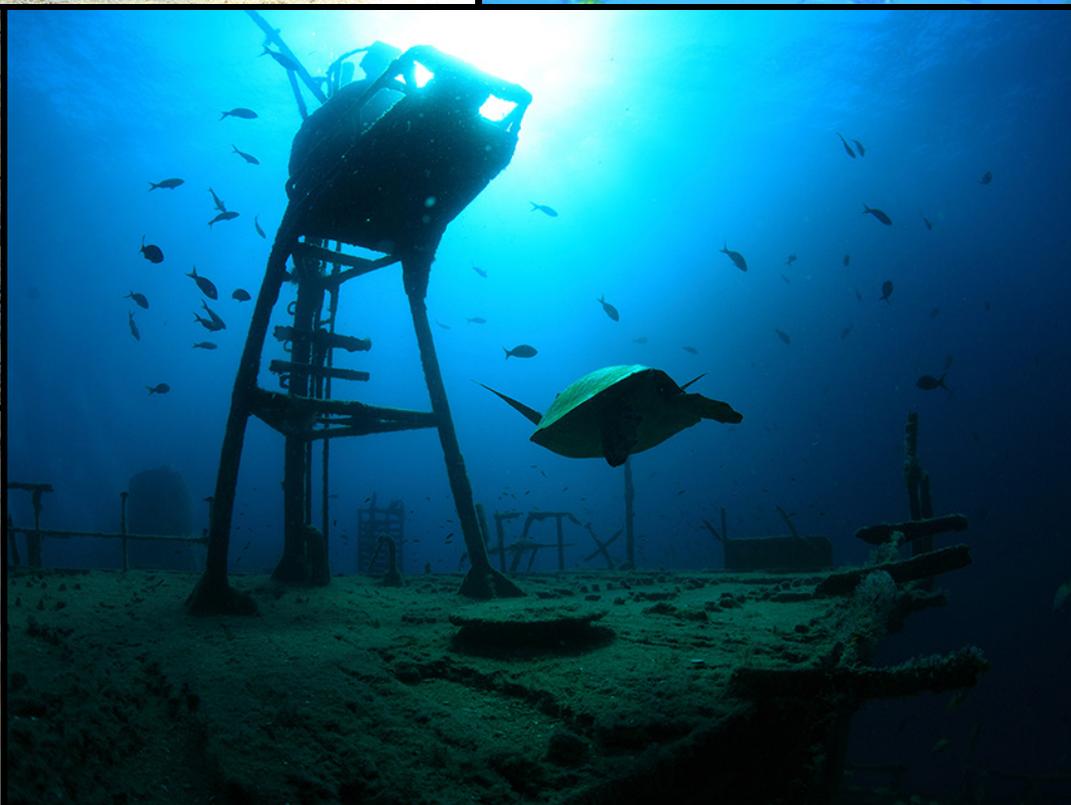


ラパスの町の近くにいるジンベエザメ

Travel Mexico
LAPAZ
メキシコ・ラパス

午前中に2ダイブを終えた後、ジンベエザメを探しに行く。シーズンは、9月から高確率で見られるようになるとのこと。ジンベエザメが見られるエリアは、ラパスの町から近い海域で、海岸線がすぐそこに見える。ポイント名はモゴテ。またはドゥナスと言うポイントから、東に流していく。見られるジンベエザメは個体によって異なるが、今回出会った3匹は、どれも大きく、まるでバスのような印象だった。ただ今回は、透明度がとても悪かったのであまり見えない……というか環境がそうさせたのかも(笑)。タイミングにもよると思うが、今回は意外と早い段階で見つかり、たくさん飛び込んだ。最初に見つかった個体は、泳ぎがとても早くて、出合頭を楽しんだ。すぐにボートに乗っけてもらって、また進行方向の先で、落としてもらう方法。最後に出会った個体は、足がつくほどの深度で泳いでいてびっくり。他では見られないような環境でジンベエザメに会えた。その年によって出現率は違うが、去年は1日に30匹のジンベエザメが見られたそう。すごい!





Travel **Mexico**
LAPAZ
メキシコ・ラパス

アシカ以外のポイントも、もちろん面白いよ！

ラパスのポイントは、もちろんロスイスロテスだけではない。お薦めはまず、スワニーロック。真っ白な砂地のポイントに平らな細長い根があって、その周囲はとても魚影が濃い。フエダイの仲間やメアジの仲間などが群れている。白い砂地の上でもお魚たちが大行進しているので、見るのも、撮影するのも楽しい。毎年海から溢れ出すほどの魚影だが、今回はなぜかとても少なく寂しい感じだった。それでも、お魚のピラミッドなどにも会えたので、嬉しかった。そして、忘れてならないのが海底山脈の大物ポイント、エルパボ。高確率でハンマーヘッドシャークに会えるポイントで人気がある。また、カジキなどの目撃例も多数なので、期待大のポイントだ。そして沈船のポイントは、ファンミンとサルバティエラ。ファンミンは船体がしっかりと残っているので、船内探索ができる。サルバティエラは、1976年にスワニーロックにぶつかって沈んだ貨物船。乗船していた100人ほどメキシカンは無事に生還。海底には崩れた船体や車の残骸、トイレなどが見つかる。魚影が濃く、狭い範囲で動かず、じっくりフィッシュウォッチングも楽しめる。そして、島が鯨の形をしたイスラバジエーナ。これまでは、頭の部分の小さなケーブを楽しんでいたが、尻尾側で潜ってみると砂地が広がり、中層ではモブラの編隊やメキシカンバラクーダの群れ、カメにも会える。

今回、お世話になったダイビングセンター

コルテスクラブ

最近、ずっとお世話になっているラパスでも老舗のダイビングセンター。海やゲストのケアに対して、責任感が高いマネージャーのリカルド、ラパス歴が4年目を迎え、しっかりと海案内、またゲストへの心遣いも素敵だった野上幸子さん、そして陽気でサービス精神旺盛なメキシカンスタッフの面々。繁忙期には、日本人ガイドさんが2名以上は常勤するので、言葉の心配などもない。ボートは10隻ほど有り、日本人ゲストには、なるだけ大きくて、スピードの早い船を手配するようにしているとのこと。また、敷地内にはサンセットバーがあり、アフターダイブに海を眺めながら、メキシコの地ビール、マルガリータなどを楽しむことができる。時折、タコスBBQを開催し、ゲストのみんで楽しんでいる。ラコンチャホテルに併設。



ラコンチャホテル

コルテスクラブを併設するリゾート。ラパスの町から車で7分ほどのロケーションに位置する。海岸線に立つリゾートで、すべての客室はオーシャンビュー。淡いトーンの色でまとめられ、清潔感がある。ベランダもあるので、器材干しなど使い勝手が良い。広い敷地内には、レストラン、バー、プールなどがある。また緑も多く、サボテンやヤシの木などの南国の植物がリゾート感を演出。朝食は、ゲストの人数によってブッフェの時もあるが、アメリカン、メキシカン、バンケーキから選ぶ。



ランチョビエホ



ビスマルクシト



Travel Mexico LAPAZ

メキシコ・ラパス

El Mezquite Grill



ダイビングを楽しんだ後は、ラパスの町で舌鼓!

テイトリップの場合、3本のダイビングを終えてダイビングセンターに戻ってくるのが、夕方4時半くらい。それからログ付けをしたり、プールで泳いだり、リラックス。ラコンチャホテルに滞在の場合は、7時半頃に、タクシーを予約して町に出てみるのも良いかも。ちょうど夕焼けの時間で、タクシーの車窓からの眺めも素敵。まず、ラパスを訪れる日本人ダイバーなら、必ず知っているタコスの有名店、「ランチョビエホ」。ローカルの人でも通う人気店で、タコスの具材となるお肉・アラチェラが特にオススメ。みんなで行くと、キロ単位で頼んでしまう。海岸線に位置するオススメのシーフードレストランは、「ビスマルクシト(別名ロブスターハウ)」。セビツェカマロン(エビ)、クラムチャウダー、チリエジャーノス、シーフードピザ、シュリンプカクテル、チョコラータ、カキなどがオススメ。どれも美味しい! 「El Mezquite Grill」は、以前はバッファローグリルというお店があった場所にできた新しいお店。とにかく「お肉が食べたい!」と思い選んだレストラン。お店がオススメするヒステーキは焼き加減など抜群で、是非注文してほしい逸品。またハンバーガーの種類も豊富で、ボリュームもあり、大満足間違いなし。今回訪れたレストランはどれも外れなし! 大満足のラパスの食事情でした!

